

We went to CANADA to meet my friends.

(友人たちに会いにカナダへ行って来ました) ~第2章(ハプニングは続く)~

No.37 鴛海拓也

7月18日(火曜日)

「空港」に無事に着いたが、昨晚残した「ビール(500ml)」2本とワイン1本は機内に持ち込めないとの事で、「成田空港」で没収された「ウイスキー」に続いての出来事になった。機内の「安全確保」には仕方ない事だとあきらめた。こちらでは、路上や公園での飲酒は禁止されているので「コンビニ」ではアルコールは販売してなくて「リカーショップ」にて購入しなくてはならない。また、販売単位も「ビール(500ml)」の6本パックからで、晩酌で飲み干せる量ではない。残った分は機内に持ち込めず、また預けるスーツケースの中では心配なので仕方ない。

オタワへの航空便は9時30分だが、15分前になっても「搭乗手続き」がない。他の乗客たちも焦っている。ローカル線ならではないだろうか?最初に乗り込むと客室乗務員の女性は大きなあくびをしていた。結局、何も無いのに10分遅れで離陸した。

1時間のフライトで、オタワに到着。空港までカイラが迎えに来ている。本当に有難い。色々なサイン(看板)が英語と仏語で表記されている。今日はあるいてダウンタウンを散策との事で、ホテルに荷物を預けて昼食。イタリア、フランス、中華などのレストランがあるが、「ラーメン屋」を希望。値段は高いが、ここで美味しい「豚骨ラーメン」が食べられるとは思ってもみなかった。この「ラーメン」も日本の文化の一つとして数えられており、海外でも美味しい店しか残らない。

「コンフェデレーション広場」

市民の憩いの場なのか、落ち着いてゆったりとしている。「戦争記念碑」の前には衛兵が立っている。写真を撮っていると何処からかバグパイプの音が聞こえて来た。見ると4名の兵士が行進しており運良く「衛兵の交代式」を見る事が出来た。

「国会議事堂」

センター、ウエスト、イーストの三つの建物に分かれてあり、イギリスのビクトリア女王の命で建てられただけあって見るからに壮大である。残念ながら「工事中」で中へ入る事は出来なかった。

「リドー運河」

8段もの水門(隻を手動で開け閉めして、高低差25mの川に長さ90フィート(27.4m)の船を移動させる事が出来る。運河全体の長さは202kmあり、冬場は7.8kmが凍って「スケ

ートリンク」となる。「観光名所」となっているが、地元住民は通勤用に利用している。

#### 「アップーカナダビレッジ」

1860年代の建物を集めて、広大な敷地に当時の店や学校などの生活を再現した「野外博物館」である。衣装は元より、パン屋、鍛冶屋、羊毛紡ぎ、家具屋などもあり体験できる。オタワ市内から車で1時間のお勧めの「観光名所」である。

#### 「リトルイタリー（イタリア人街）」

カイラが、家族で案内してくれた「イタリアンレストラン」がこの一画で一番古くて、今まで経験したピザの中で最高であった。また、ビールもパブロ（カイラの旦那さん）がお願いして何と私達は、テイスティングして一番好みに合った「ギネスビール」を楽しむ事が出来た。ここをご馳走になった上、翌日、オタワでの最終日は彼女の自宅での「BBQ パーティ」に招かれた。お土産にカナダの高級ウイスキー「クラウンローヤル」を手渡された。感謝、感謝。

#### 「カナダ歴史博物館」

オンタリオ州から歩いて「アレクサンドラ橋」を渡ってケベック州に入った所にある博物館。こちらは「フランス語」が主になるので、看板など「フランス語～英語」の順で表記されている。この博物館は、カナダの原住民から独自の歴史がテーマで、10mを超える高さの「トーテムポール」なども展示されている。原住民の衣装や化粧は、「アイヌ民族」に似ていると思った。



「Parliament（国会議事堂）」 ウエストブロック



「Parliament (国会議事堂)」 センターブロック



「Parliament (国会議事堂)」 イーストブロック